

美濃加茂市では、市内に残る貴重な文化財の保存・保護活動ばかりでなく、調査・普及活動をおこなっています。みのかも文化財ノートは、市内の文化財に関連しておこなわれた様々な事業を紹介するものです。

現在、国・岐阜県・美濃加茂市により、学術上価値の高い記念物(動物・植物・地質鉱物等)について、合計 10 件が文化財として指定されています。2011 年度は、このうち半数に関わる事業が進められました(オオサンショウウオ・ネコギギ・川合のムクノキ・森山の大クワ・三和のゲンジボタル)。

(まもる) かけがえのない自然の象徴「天然記念物」

オオサンショウウオ (国天然記念物)

9 月には台風による大雨があったことから、木曾川が急激に増水しました。そして、水量が戻った後の川原に取り残されているオオサンショウウオが発見されました。付近で生息していたものと思われます。そのような個体は、多くが元の生息場所に帰ることができないため、放置することはできません。

そのため美濃加茂市職員により、計測などの調査を行った後、安全な場所へ放流しました(9/22、9/24)。このような発見の際には、ぜひ、ご連絡ください。

また化石林公園周辺の工事に伴い、生息状況の調査も実施されました。

下：生体の調査、右：木曾川への放流



ネコギギ (国天然記念物)

伊深町・三和町の河川工事が終了し、着工前の環境に戻りつつあることが確認されました。そこで期間中に保護されていたネコギギを二回に分けて放流しました(6/7:70尾、7/14:46尾)。



川合のムクノキ (県天然記念物)

木曾川河畔(川合町3丁目)にあるムクノキは、エノキとの合体木です。道路にかかったエノキの枝を剪定しました(2/14)。



森山のクワ (市天然記念物)

枝が大きくなったことから、根元付近で折損してしまったようです。幸い周囲の被害もなかったため、樹木医による診断なども行った上で保護を進めました。

後日には、剪定作業も実施しました(6~10月)。



左：全体

右：折損部分(詳細)



(ひろめる) 美濃加茂事典

美濃加茂市民ミュージアムでは、主にこの地域の資料やことがらを収集、調査、研究し、各種の刊行物や展覧会を通して広く公開しています。しかし、個々の事項についてそれぞれの分野で整理が進められているため、情報を総合横断的に照会・検索することは困難といえます。

そこで「ことがら」を五十音順に並べ、「手引き」「インデックス」「百科」としての役割をもつ『美濃加茂事典』をめざし、準備を進めています。

項目ごとに簡単な解説と関連事項があり、それらは、館蔵資料をはじめ、『美濃加茂市史』など地域に関する基本的な文献における情報、ミュージアムで行われた展覧会での情報などが記載されます。また将来的には、美濃加茂市中央図書館の図書データを付加していくことも可能です。

収集調査され、明らかになった新しい情報は web 上でその都度更新し、徐々に蓄積、充実を図っていきます。

http://www.forest.minokamo.gifu.jp/m_dictionary/

(まもる・しらべる) 埋蔵文化財の保護

美濃加茂市開発事業指導要綱に基づく 1,000 m²以上の開発計画が 15 件、砂利及び岩石採取協議会で協議対象となったものが 5 件、その他埋蔵文化財包蔵地の照会が 130 件ありました。そのうち、試掘確認あるいは工事立会について意見及び対応したものが 32 件あり、埋蔵文化財保護に関する指導などを行いました。

また赤池 1 号古墳（川合町 1 丁目）については、周辺を含めて試掘確認調査などを行ったことで、同墳の範囲や遺跡の内容などの把握が進みました。



赤池 1 号古墳の調査

(まもる) 文化財防火デー

1 月 26 日には、国重要文化財・旧太田脇本陣林家住宅（太田本町）、太寧寺（加茂川町）などを含めた市内 5 カ所において、文化財を火災などの災害から守るために、文化財を管理するだけでなく、地域の方々や消防署をはじめとした関係機関の協力を得ながら、消火訓練と立入検査を実施しました。



消火訓練（旧太田脇本陣林家住宅）

(ひろめる) 市指定有形文化財 藤原利隆禁制

藤原利隆は、美濃国守護土岐氏の守護代・斎藤利隆を指します。この禁制（法によって、ある行為を禁止すること）は、永正 8 年(1511)3 月、斎藤氏の勢力範囲に向けて、瑞林寺（蜂屋町上蜂屋）の保護のために下したものです。

今年度は老朽化した文化財標柱の修繕を行いました。



修繕された文化財標柱（中央）

